

研究集会開催報告書

平成 23 年 10 月 31 日

国立天文台長 殿

(代表者)

所属・職名名古屋大学理学研究科・助教

氏 名 大藪 進喜



研究集会名	次世代赤外線天文衛星SPICAが目指す宇宙星形成史とブラックホール進化の解明
開催期間	2011年 10月 18日 ～ 2011年 10月 19日
開催場所	名古屋大学理学南館理学セミナー室
参加人数	会場 51名+5名(テレビ会議・ハワイ,東大天文センター)
研究集会の概要	本研究集会の目的は、2020年頃打ち上げを目指している次世代赤外線衛星SPICAによる「銀河とブラックホール形成・進化研究」という具体的な将来の計画を軸に広い範囲の観測天文学者と連携するための足がかりとしたいと考え開催した。SPICAが国際協力の中で進められていることを考えると、将来は国際的な研究チームを形成する必要があると考えるが、まずは国内チーム固めを行い今後の議論を進めるきっかけとすることを目標とした。2012年には、SPICAのサイエンス国際会議の開催が検討されており、それへの向けての体制を固めることも必要であった。 このような目的の下、国内外の研究者による最新の銀河およびブラックホールの形成進化の観測的研究の講演と将来の日本が所有する観測所・装置とのSPICAのシナジーについて議論した。また来るALMA時代、さらにその先のTMT時代において日本によって切り開き続けると考えられ銀河とブラックホールの進化・形成の観測的研究とSPICAと組み合わせることは、日本の独自性となると考えている。 さらに、SPICAが打ち上げを計画している2020年頃は近い将来ではあり、現在の大学院生や若手ポスドクが脂ののった研究者となっている時期である。このような大学院生、ポスドクにSPICAのことを知ってもらい、積極的にSPICAを用いた銀河形成・進化研究に参加してもらえるように、本研究集会をもって将来を見据えた活動とした。

(裏面あり)

研究集会の成果	本会議は、会場に国内外10機関から51人(うち国外から3名)、テレビ会議で5人の出席者のもと23講演によって構成した。特に名古屋大学からは学生も含めて24名もの出席者がおり、今までSPICAの研究会が関東圏で開かれていたのを考慮すると、今回わざわざ名古屋大学での開催を行い新しい参加者を迎えたのは大きな成果の一つであると考え。 研究集会中は赤外線天文衛星「あかり」、すばる望遠鏡、ASTE、ハーシェル宇宙天文台等から最新の銀河・ブラックホール進化・形成の観測的研究による講演に加え、近い将来の観測装置計画とSPICAのシナジーに関する講演・議論を行った。またこれらの講演の中で、SPICAの観測装置のフィルターや低分散分光器の仕様に付いての議論も行った。これらの議論は今後も続けていくことを確認した。 今後の進め方として、このような集会を定期的に持ち議論を進めていければいいという意見も頂いた。またHyper-Suprime CamやTMTで行っている研究トピックを細分化してサブグループを形成し、メーリングリスト等を使用して議論を深めていき、その成果を集まって議論していくのがいいのではという経験からの提案も頂いた。今後の進め方の参考にしたいと考えている。
その他参考 となる事項 (希望事項も含む)	このたびは、本研究集会を支援して頂きありがとうございました。学生、ポスドクを中心とする若手の旅費を援助することができ、その結果活発な議論を持つことができたのではと考えております。